

田中研新聞

第33号

2016年
5月10日発行

2016年5月10日号

甲南大学知能情報学部田中研究室 毎月発行
http://carnation.is.konan-u.ac.jp
編集長：岡田 航大 (M1)
編集委員：橋本 涉 (B4)

それぞれ研究が本格始動

研究室メンバーの大学生活3

今回は4月号に引き続き、残りの須谷、橋本、藤長、松田の4人に1つずつ記事を書いてもらったので、掲載する。

須谷章宣

去年の夏より本格的に活動を行っていたKOROプロジェクトにおいて田中研究室学部生メンバーを一新し、さらに和研研究部の学生を新たに加えて、2016年度KORO研究会が開始しました。

田中研究室では、今回夏のオープンキャンパスで目標としている新規搭載機能として、初めにKOROによる「校内案内システム」が挙げられます。このシステムはオープンキャンパスでKORO自身が来賓されたお客様を連れて本校舎の各建物をまわり、施設の説明を詳細に行うガイド機能です。この機能は以前に同研究室で行われていた院生の「ロボットの自己位置推定」の考えを基盤として考案されています。

身が話しかけている感覚になるのではないかと期待しております。この機能はオープンキャンパスだけでなく常時図書館に在している場合でも図書館職員との連絡や、図書館の情報を得られる機能としても考えられています。

その他にもKORO専用のHPの開設や、ウェブサイトから様々な情報を取得し利用者に発信する機能、KOROとのヴァーチャル空間を用いたコミュニケーションシステム、現在の図書館案内機能での図書館からの多様な情報提示など新規システムだけでなく既存のシステムを改良して機能も予定しています。今後の課題としては「図書案内システム」と屋外でのセグウェイを用いているシステムの解析・引継ぎが挙げられます。このプロジェクトは学部生が作成したシステムが基礎となっており、その担当の学部生が卒業してしまうと次のシステムを基盤とするとき誰かがシステムの解析を行わなければなりません(当然引継ぎ資料などがあれば解析は少なくて済むのですが)。解析や言語の学習には時間と労力がかかるものの、その面は前年度プロジェクトを経験している院生の知識と経験でカバーしたいと考えています。



橋本涉

先日、卒業式にてKOROと一緒に写真を撮るプログラムを作り動かしました。KOROにいくつかの表情を用意し、写真を撮るまでの音頭をとってもらおうというものです。

私は今まで、自分の作ったプログラムを知能情報学部の先生や学生以外に見せたことがありませんでした。大学3年目にして初めてそれをやる場面がやってきました。というのも、コマンドなどを打ち込み入力しパソコンに出力するよう

うな、専門的な勉強をしていないと扱うことが難しいプログラムしか作ったことがなかったからです。ですが、今回は違いました。コントローラーのボタンを押すとKOROが動いてしゃべってくれるものを作るようになったのです。昨年の9月、ゼミでの勉強が始まるまでその様な方法を知りませんでした。3ヶ月間ゼミの授業で新しいことを学び、昨年12月に今回のプログラムを作り始めました。

初めは全く作業が進まず、少し不安でしたが先輩方から手助けしていただき、自分の作りたいプログラムの全体像が想像出来てきたとき、急にスラスラと進むようになりました。途中、知らない関数をネットで調べ取り入れたら、所々先輩方

藤長新

3回生の冬、4回生の方々の卒業式に向けてKOROの卒業式バージョンを作成するという課題が設けられました。内容としては、卒業生にKOROと楽しく図書館エントランスで写真撮影を行っていたと、というものです。目の画像、音声、サーボモーターと3つの班があり、私と同じゼミのメンバーである伊東君は耳と舌をゲームパットからの入力で動かすサーボモーターに属しました。初

めは正直12月まで自分が何を学んでいるのかよく分からずやり方を覚えていたのですが、このプロジェクトによって実際にKOROに出力する際に、どの操作がどのような意味があるのかという事について、かなり理解が深まりました。

したが、KOROには興味を示さず、30分ほど動きがありませんでした。そこでより多くの方にKOROの存在に気付いてもらうため場所を図書館の外に移したところ、反応があり、撮影が始まりました。各班作成したプログラムも動作し卒業生の方々に楽しんでもらえたかと思えます。反省点としては、撮影以外でのKOROの動きがなくあまり目立たず、何をするのかわからない、撮影場所の想定が甘かったこと、図書館エントランスは撮影場所の後ろがシャッターであり、卒業生としては、そのような地味な場所で撮りたくないという、どれも顧客目線の考えが足りなかったように感じました。プログラムについても先輩方々の力を借りすぎたかのように思います。次からはこの反省を生かし、自己解決能力の向上に励む、ものを提供する場合、顧客の立場になってよく考えようよというのを作成しようと思えました。

突然ですが、私はこの大学の3年間、部活動であるジャズの演奏活動に熱を入ってきました。18人で編成されるビッグバンドの演奏を中心に、夏の全国大会や年間40件ほどの依頼演奏をしてまいりました。時にはパーティー会場で演奏をしたり、船のお見送りをしたり、あるいは自分たちでライブを企画したり、週に3回の練習とほぼ毎週の日曜日に演奏依頼が入ること、体力的にとってもハードでしたが、演奏を通じて多くの大学生や企業の方々と交流を深めたり、何より自

松田脩平

甲南大学 知能情報学部 知能情報学科 田中雅博ゼミ 新4年生の松田脩平です。

突然ですが、私はこの大学の3年間、部活動であるジャズの演奏活動に熱を入ってきました。18人で編成されるビッグバンドの演奏を中心に、夏の全国大会や年間40件ほどの依頼演奏をしてまいりました。時にはパーティー会場で演奏をしたり、船のお見送りをしたり、あるいは自分たちでライブを企画したり、週に3回の練習とほぼ毎週の日曜日に演奏依頼が入ること、体力的にとってもハードでしたが、演奏を通じて多くの大学生や企業の方々と交流を深めたり、何より自

分たちの演奏によって、お客様が楽しんでくれている様子を見るのがとても自分のモチベーションにつながりました。たぐいまれな活動真つ最中でありますが、自分の成す事で多くの方々の喜びにつながり、新しい出会いが生まれるような仕事をしたと考えています。さて、私の話はこのくらいにして、とある音楽イベントについて書かせていただきます。5月29日(日)に神戸のハーバーランド、スペースシアターにて、「関西学生JAZZフェスティバル」というイベントを行います。これは私が2年生の夏から1年間、実行委員長を務めていました。関西の11大学、総勢200名の学生が出演する学生音楽イベント、「大阪城JAZZフェスティバル」のリニューアル版となります。去年の開催で25回目を迎えたこのイベントなのですが、より多くのお客様にお越しいただき、JAZZについて知ってもらおうということで、入場料を取らないフリーな場所へと移転して開催する運びになりました。私自身は出演する予定はありませんが、多くの大学生やプロのミュージシャンによる演奏を楽しめます。そして何より、可愛い後輩達が開催に向け準備を進めていますので、お時間があればUMIEやMOSAICへの買い物がてら、お立ち寄りいただけたいと思います。JAZZについて知識がなくても、心からお楽しみいただけると思います。

「関西学生JAZZフェスティバル」5月29日(日) 開演 11:00 終演 19:00 予定場所：神戸ハーバーランド、スペースシアター(JR神戸駅より徒歩3分ほど) 入場無料!

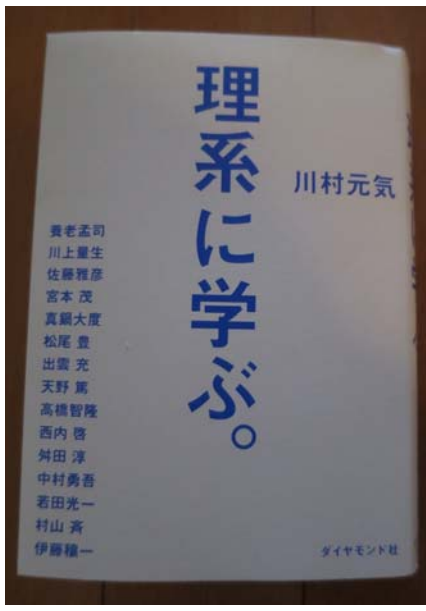
田中先生書評

川村元気著

「理系に学ぶ」

ダイヤモンド社

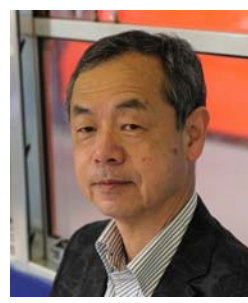
悪人、告白、寄生獣、進撃の巨人、モテキ、青天の霹靂、電車男などの映画プロデューサーであり、作家である典型的文系著者が、理系で今をときめく数々の著名人との対談をした内容が書かれている。対談相手は、養老孟司(解剖学者/作家/昆虫研究者)、川上天野篤(順天堂大学心臓血管外科教授)、高橋智隆(ロボットクリエイター)、西内啓(統計家)、舛田淳(LINE取締役CSMO)、中村勇吾(インタールフェースデザイナー)、若田光一(JAXA宇宙飛行士)、村山斉(理論物理学)、伊藤穰一(マサチューセッツ工科大学メディアラボ所長)である。



これら、全く違う分野ではあるが、すべて理系の人との対談を読み進めてみると、自分がやったことが着実に積み上げられる理系の仕事というのが共通して垣間見える。それらは、ほぼ文系の人にはできないことばかり。養老孟司といえは、「バカの壁」を代表とする多くの大ヒットの書物の著者であり、ニコニコ動画を

生み、カドカワの社長になった川上氏、バザールでござーるなどの傑作CMを作り出した佐藤氏、スーパーマリオやゼルダの伝説などをゲームプロデューサー宮本氏、LINE取締役舛田氏、MITメディアラボ所長の伊藤氏など、この記事を読んでいる諸君の中も、ここに挙げた人の中に何人か聞いたことがあるだろうし、皆さんが漠然と目標としている人もあるかもしれない。理系で情報系の皆さん、是非、こういう本を読んでほしい。理系で学んでいることがいかに可能性を秘めたことであるか、認識して自信を持つてほしい。ビルゲイツ、ステイブジョブズ、ラリーペイジ、皆理系人間である。そして、取り敢えず現状は無視して、思い切って自分の将来の夢をこうという人の話を参考にして描いてみてほしい。そのとき、君たちの将来像へ向かった歩みが始まる。(田中雅博)

今月還暦を迎えます



遠い将来と思っていた還暦を、今月迎えます。干支の「干」が「十干」、「支」が「十二支」で、それらが元に戻るの10と12の最小公倍数である60年であるということ。私の生まれ年は、今年と同じ、丙申(ひのえさる)です。24で結婚し、2人の娘をもうけたのがついこの前だったように思うのに、2年前の長女に続き、この4月には次女も結婚しました。名実ともに、人生の次のステップに進んだことを実感する昨今です。

仕事の面では、27才直前で大学の教員となつてちょうど33年が過ぎました。何年教壇に立つても授業をすることに慣れません。いまだに授業の準備で大変苦労するところを見ると、この仕事には向いていなかったのかも知れませんが、それでも42才で教授になつて、最近、図書館長、学部長の大役もなんとかこなせたことを思うと、それなりに周囲に認められながら仕事をやってきたという感慨があります。これから年齢になると、次第につらいことが増えていくだろうと予測していますが、少しでもそれを払拭しようと思ひ、今、必死になつて研究を実用化しようとしています。

私が学部長のときに全学のプレミアプロジェクトが始まり、知能情報学部からもロボット学習プロジェクトを立ち上げることにしました。その中身を充実させるために自ら3つの自分の研究テーマをその中に押し込めました。KORO、来場者カウンタ、ラーニングコモンズビューアーがそれにあたります。KOROは学生主体のもので、少し気が楽ですが、その分学生諸君にはプレッシャーがかかります。来場者カウンタはオープンキャンパス

の度に正門に出しています。が、センサーを1つにできないか、検討することにしています。ラーニングコモンズビューアーはまさにこれからです。プレミアプロジェクト以外では、科研費による研究では、私が単独あるいはゼミ生とともにやってきた3D世界の最近の研究を総まとめとして、一つの大きな世界にまとめ上げたいと思っています。総合研究所のプロジェクトでは、本学のスポーツの曾我部先生と共同で、身体計測の世界に乗り出します。さらに、いくつかの企業との共同研究も準備中であり、これらおよびその発展形によつて、今後5年くらいの仕事の目標ができたと思つています。若い頃は、意味も分からずいろいろな分野の難しい勉強もやりましたが、いま、その頃やつた基礎勉強が役立つのを実感しています。もっとも、私の基礎知識には不足を感じており、若いときの基礎勉強

は非常に重要です。以上、還暦にあたり、今までの人生を振り返ってみました。いつの間にか、常に動いていないと安心できない生活習慣になつており、何もしないのが一番苦痛です(これも、ある種の生活習慣病?)。今後、多くの仕事を目の前に自分ですら下げて生きていきたいと思います。これからも、こんな私のおつきあい、よろしくお願ひします。(田中雅博)

日本酒再発見

第1回 瀬祭

初めまして、連載記事を担当することとなりました橋本渉です。私は日本酒が好きで、趣味で色々な銘柄を飲み比べています。そこで毎月私がこれまでに飲んだ日本酒の紹介をすることにしました。

一回目は私が日本酒を飲めるようになったキツカケのお酒、「瀬祭」発泡スパークリングです。このお酒はヨーロッパでも振る舞われるなどして、日本酒独特の香りがあり強くなくとフルーティな味わいのため、あまり日本酒に親しみのない方でも飲みやすく、味を楽しむことが出来ま



す。逆にずっしりした様な日本酒が好みの場合には薄く感じるかもしれません。スツクリしていてもガブ飲みすぎてもしょうかもしれません、アルコール度数は他の日本酒と変わらないので注意です(笑)このお酒は山口県の地酒で、旭酒造で製造されています。ここでは、通常機械を使って行う製造過程も手作業で行つていたり、原材料の米の精米時間を通常より時間を掛けて行つているのでより美味しいお酒が出来上がります。しかしそれではコストがかかってしま

し南東にある、酒仙堂フジモリが直売店となつていて取り扱っているのは是非買って飲んでみてください。私はこれを飲むまでは、居酒屋などで少し日本酒を舐めてみても美味いと感じ

られませんでした。これを飲んで以降、日本酒慣れたのか味が分かってどんどんハマっていきました。次回以降も日本酒を紹介していくので、よろしくお願ひ致します。(橋本渉)

熊本地震を受けて

4月14日から立て続けに熊本や大分で大きな地震が今も頻りに続いている。今回の地震は震度7を2度も観測し、規模だけという点では東日本大震災よりも大きい。震度7は1949年に設定されて以降、今回の2度の地震を含めても5回しかなく(阪神淡路大震災・新潟中越地震・東日本大震災・熊本地震・熊本地震)そのうちの2回が今回の地震という異例な事態であった。

熊本は、行った事がない都道府県の一つで、今回の地震で熊本城などの名所が決壊したりしてしまつた。東日本の時のように、ボランティアに行くことも考えたものの、様々な事情から今回は断念し、できる範囲で募金だけすることにしました。募金で思い出したが、ある野球選手が契約更改の度に「誠意とは金」だといつてゴネていて、正直あまり良い印象がなかったが、東日本大震災の時にその選手は「1億円」を寄付した。今では支援の方法も多種多様になつていて、それもまた賛否両論あるのだが、たとえばアマゾンの「これ欲しい」サービスは被災地域の避難所などで足りてい

編集後記

4月も中旬に入ると履修登録やその他のガイダンスなどの繁文縟礼なものもほとんど終わり、その分普段の授業やTAが本格的に専門的な分野に入つてきま